



点字パンフと触察用模型

広報課では、参観に訪れた視覚障害者のために、点字版パンフレットと触察用模型により国会の仕組みや参議院の役割、活動についての情報提供を行っているところです。それらのきっかけは視覚障害者からの声に因るものでした。

昭和58年2月、三重県立盲学校の生徒2名から斎藤十朗議院運営委員長に送られた手紙（要望）を契機として、同年3月1日の議院運営委員会理事会において「国会案内」に準じた点字版の作成、配布及び触察用議事堂模型の製造が了承され、前者は同年4月30日から配布し、後者は同年5月10日からサービスロビーに展示しています。そして、年間30万人超の来訪者がある参観ロビーでは、平成16年11月の供用開始に合わせ、新たに触察用議事堂模型を展示するとともに、平成22年3月に参観で訪れた筑波大学附属視覚特別支援学校の生徒からの要望に応え、触察用参議院議場模型も製造し、議事堂模型に併設しています。

出版物における点字印刷の種類には、紙に凹凸加工を施す「エンボス式点字」と樹脂インクを特殊クラフト紙に印刷し熱で固める「固型式点字」がありますが、固型式は凸部が硬く長時間触読すると指を痛めることがあるため、参議院の点字パンフはエンボス式を採用しています。昨年度には外部有識者を交え全面的な記述内容の見直しを行い、サイズもB5版からA4版に変更することで、4ページに渡っていた議事堂の図版表記と凡例を見開きに収め触読の煩雑さを避けることとし、更に点字に併記している墨字のポイント数を上げ弱視の方にも活用できるものとししました。加えて製本の面でも、例えば記述変更の訂正文をページの間挟み込むだけでは視覚障害者に気付いてもらえないため、従前の綴じからページごとに差し替えることができるバインダー綴じに変更したところです。

一方、触察用模型についてですが、サービスロビーの模型は議事堂外形を単純化することで、視覚障害者にとって把握しやすいものとなっています。これに比して参観ロビーの模型は、極力実物に近似したものとし、触察に耐えうる堅牢性ととも鑑賞に堪えうる造形性を兼ね備えたものにする事で健常者にも興味を持たせ、ひいては視覚障害者への理解向上につながることを目指しました。サイズに関しては、児童、生徒が立位置を変えることなく容易に触察できるよう、議事堂模型は1/500、参議院議場模型は1/100としました。また、議場模型内部に全ての点字を表示することは不可能なため、模型の外に連想しやすい凡例（「議長席」は「ぎ」、「事務総長席」は「そ」等）を示した上で、内部には略称のみを表示しています。この他にも様々な工夫を凝らしています。

社会のバリアフリー化が叫ばれていますが、視覚障害者だけをとりとってみても、その障害は多様化しており、残念ながらその対応は十分とは言えません。今後も視覚障害者の社会参加、政治参加を推進するためにも、真に役立つ情報提供ができるよう心掛けていきたいと思ひます。

た お か よしのり
(田岡 彦了・庶務部広報課)